

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 7月 11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 長東		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5 (電話) 082-230-3030		
自己評価作成日	平成26年5月17日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成26年6月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

開設時より利用者様の「笑顔」を大切に支援を続けている。施設内では、常に大きな笑い声が聞こえるなごやかな雰囲気があり、日々、穏やかに生活していただいている。又、「食べる」ことは「生きる力」をモットーに、レトルトや冷凍食品は使用せず、毎日3食、手作りの食事を提供し健康保持につとめ、喜んでいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームほのぼの苑長東（以下、ホーム）は、株式会社富山学園が運営するホームです。地域との交流を積極的に行い、地域に根ざしたホームとなるよう努力されています。災害対策では、備蓄や炊き出し用の設備を整え、地域との協力関係も築かれています。開設時に作成した理念を基本に、ホームでは「食べる」ことを大切にした支援に取り組まれています。毎食、職員が手作りし、野菜の切り方やミキサー食にするなど、入居者ごとに合わせた食事の提供ができるよう工夫されています。また、入居者の「笑顔」を引き出せる支援となるよう、職員全体で意識統一を図るためのチェックリストの活用や、意見交換する場を積極的に設けるなどの体制を整えておられます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、職員全員でBS方式による「理念」をつくり、毎朝の朝礼にて全員で唱和し、常に身近なサービスの「基本精神」と位置づけ、日々の業務にあたっている。	職員全員の思いを盛り込み、口語体で分かりやすく表現した理念を作成されています。職員が支援の中で迷い立ち止まった時に、いつでも立ち返り応えを導き出せるよう、理念の浸透に取り組み、実践に繋がるよう努力されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	小学校の町探検で訪問してくれた子供達が友人を連れて訪問してくれたり、近隣の方とは日常的に「おつきあい」出来る関係を築いている。	町民運動会や小学校の運動会、夏祭りなど、地域行事に参加されています。また、舞踊やチンドンなどのボランティア訪問もあります。地域住民から花や野菜の差し入れがあるなど、日常的な関わりも含め継続的に交流されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の存在を地域の方々が認識して下さり、迷い子になられたお年寄りの保護を依頼され、民生委員の方と連携を取り、無事家族の方と連絡が取れ、事なきを得、喜んでいただいたこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、出席された方々に一言ずつお話しをして頂き、教えていただくこともあり、サービスの向上に役立っている。	会議メンバーは、家族、町内会長、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員の参加があります。会議では、プロジェクターを使い、行事風景や日常の様子の写真コメントを入れて報告するなど、伝わりやすくするための工夫をされています。また、勉強会を兼ねて会議を開催することもあり、参加者が何かしら持ち帰れる場となるよう努力されています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所より受け入れを依頼されていた方の逝去にともなう各種手続き等のアドバイスを頂き、家族の方へのサービスに役立っている。	ホームでは、市行政と連携を図り、困難事例の受け入れも行われています。相談やアドバイスをいつでも受けられる体制を整えられています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束は原則行わない」は開設時と変わっておらず、外出・散歩は本人の意志通りに行っている。エアコンを入れない期間には玄関、窓は無施錠としている。</p>	<p>職員は、身体拘束をしないケアについて、勉強会や研修を通して共通の理解を深めておられます。ホームでは、毎月「虐待の芽チェックリスト」を用いて、日常の細かい対応などを職員全体に確認されています。チェックリストには、一人ひとり反省点を記載し、施設長が助言やコメントをつけて返すなど、きめ細かいケアの実践に取り組まれています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>毎月のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を必ず行い、自分自身の反省とし、お互いに疑問に感じる点について、気軽に注意し合える関係作りを構築し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者の中に成年後見人を立てておられる方があり、スタッフ会議でその内容を勉強し、日々のサービスに活用している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約締結時、及び解約時に於いては十分な説明時間をとり、納得していただくよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>来苑された家族には職員や管理者が意見をいただけるよう声掛けし、要望があればすぐに実行できるような体制づくりをしている。</p>	<p>面会時や家族会などを通して、意見や要望を聞かれています。職員は、入居者との何気ない会話を大切にし、改善点等があればすぐに対処するよう取り組まれています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、朝礼やスタッフ会議に於いて職員全員が意見を出しやすい機会を設け、スタッフ会議には必ず代表者が出席し、その意見を聞き、運営に役立てている。	管理者は、普段から職員との関係性を築き、日常的に意見を聞くよう努力されています。ホームでは、子育て支援の一貫として、子どもを連れて出勤できるような環境を整え、入居者へのチャイルドセラピーにも役立てておられます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月一回の定期スタッフ会議への出席時や通常業務中の巡回等により職員の状況を把握し、給料や賞与に反映させ、各種研修会にも本人の意志に添うよう計っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本人の希望する研修はなるべく勤務時間内に受講できるよう配慮し、各試験日には本人の休日になるようシフトを調整し、向上心を持って働けるよう環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム事業者交流会の会員となり、各勉強会や研修に参加できる機会を設け、他施設との情報交換を行っている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所の意志を確認した上で、日常生活の中での不安や、要望等に耳を傾け、思いを真摯に受け止め、サービスに反映させている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来るだけ面談する機会を多く設け、家族の思いを受け止めている。小さな不安にも出来るだけ対応し、安心していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の思いと家族の要望を出来る限り、正確に把握することに努め、サービスとして提供し、喜んでいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で職員と共に家事を行う中で、人生の先輩として尊敬し、教えを乞う場面も多くあり、職員にとっても有意義な場となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お誕生日には家族の方へ連絡をとり、一緒に御祝いして頂く等、常に連絡を取り、本人の情報を伝え、共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お元気な頃に働いておられた会社の方が定期的に来苑されたり、入所前に住んでおられた家の近所の方やお友達がおしゃべりをしに来苑されたりして、リビングで楽しい時を過ごしていただいている。	知人や友人との面会や、手紙のやり取りをされる入居者もおられます。彼岸や盆の墓参りなど、本人の意向に添いながら関係が途切れない支援に努められています。	
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士でお互いに声を掛け合ったり、協力し合える関係が多く見られ、そんな時は職員は口出しせず、そっと見守るような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前、入居しておられた方の家族が来苑され、現況を話して下さる関係を続けており、時折、花や七夕の笹など届けて下さり、会話ができる関係作りに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いに耳を傾ける、又、その表情などからも望んでおられることを汲み取るようにしている。これまでの生活歴や、ご家族との会話からも情報を収集することで、“その人らしさ”の把握に努めている。	日常の関わりの中で、常に入居者の声に耳を傾け、本人の思いに添った支援に努められています。得た情報は、申し送りノートに細かく記載し、職員全体で共有されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にケアマネージャー、看護師共に情報収集を行い、生活面や介護、医療を様々な側面からとらえるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録に残すことで現状を把握でき、又、その状態の変化を知ることができる。利用者様の状態は日々変化するため、朝の申し送りや、ミニカンファレンスを行うことにより、スタッフ同士で情報を共有している。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人を中心とし、家族、介護スタッフ、看護師、ケアマネージャー、かかりつけ医との情報交換を密に行い、個別性のあるケアプラン作成を行っている。	ケアプランは、本人や家族、関係者などからの情報や意見をもとに、計画作成担当者が作成されています。一人ひとりの状況や思いを踏まえ、誰のケアプランか一目でわかるように細かい支援内容を盛り込むなど工夫をされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、看護記録、経過記録の記入に加えて、各ユニット毎に伝達事項を記入できるファイルを用いることで優先度の高い情報を分かり易くする工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御家族の方と相談し、外出、外泊を目標にして、歩行練習に取り組んでいる。又、学区の小学生が町内探検で来苑し、それをきっかけに交流を続けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域社会の中に溶け込み、町内会や日常生活の中での近所との交際を密にし、行事への参加等、メリハリのある暮らしを送ることが出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	常に連絡を取り、急変時には緊急往診して頂くこともある。日常生活での健康管理も細かく指導を頂いたり、入院先の確保にも安心して相談できる関係作りが出来ている。	協力医療機関による往診が毎日あり、夜間や緊急時における体制を整えておられます。必要に応じて歯科医師による往診があり、医療面での安心を提供されています。	
		○看護職員との協働	毎日の申し送り時には勿論、日常業務の		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	中で少しの変化も見逃さず、連絡を取り合う体制が出来ており、協力医への報告も密に行われ、救急時の対応もスムーズに行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医による入院先確保の体制が出来ており、必要時の受け入れ先に不安なく対応できている。又、入院中の様子も密に情報交換し合える関係作りを構築している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの希望もあり、「その時」についての話し合いを医師をはじめ、家族・職員それぞれ十分納得出来るまでに行い、気持ちをひとつにして支援している。	重度化した場合は、家族の要望に添って、関係者と話し合いを重ね、ホームでできる限りの支援に取り組まれています。また、家族の協力や理解を得るための説明を行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	月一度のスタッフ会議の後半部分に職員勉強会を設け、看護師指導による応急処置や用具の使い方などの訓練を定期的に行い、いつでも実施できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署員にお願いして実際に煙を炊いての避難訓練や、施設内の備品を使つての救助訓練など、定期的に行い、運営推進会議の中にも盛り込み、一緒に訓練を行っている。	消防署立ち合いのもと、地域住民の参加を得て避難訓練を実施されています。また、毎月、ホーム独自で夜間避難訓練を実施されています。消防署の助言を受け、3日分の食料の備蓄、炊き出し用プロパンガスが整備されています。ホームでは、6月を防災月に設定し、備蓄食料の入れ替え、地域住民と実際に炊き出しを行うなど、地域との協力体制を整えておられます。さらに、地域で実施される自主防災集会に参加されています。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のスタッフ会議に於いて職員全員で「虐待の芽チェックリスト」で1ヶ月の介護を振り返り、声掛けや日々の業務を見つめなおす場を設けている。	職員一人ひとりが意識を深めながら日々の支援に取り組むよう、毎月、自分自身の声かけや行動について振り返りが行われています。同性入浴やトイレ介助の希望があれば対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	召し上がりたいものを聞き、メニューに入れたり、出掛けたいところに行ったり、日々の暮らしの中でもどうありたいと思っておられるのかを職員全員で考え、提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決められたスケジュール通りでなく、無理強いせず、あくまで本人の生活リズムにあわせて起床・食事・入浴等、個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に応じて洋服を家族の方とともに選んで着用していただいたり、理美容を定期的に利用して、その人の好みに合わせて整容していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来るだけ四季を感じていただける食材選びに努め、ともに下ごしらえや盛り付けなど行い、時には苑庭で趣を変えて召し上がっていただくようにし、食事を楽しんでいただいている。	ホームは、「食べること＝生きる力」をモットーに、職員の手作りによる食事を提供されています。また、箸で掴みやすいように切り方を工夫されています。ミキサー食を提供する際は、野菜の種類ごとに潰すなど、本来の色合いや味が混ざらないように細かい配慮をされています。	
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の最低必要量の目安を1500ccとし、飲んでいただけるメニューを個々で対応している。又、体調の悪い時は水分だけでなく、栄養補助の目的での経口補水も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	開設時より「口腔ケア」が認知症の進行に影響があることを意識し、常に口腔内の清潔を心掛け、毎食後の口腔ケアは勿論、訪問歯科の導入により、定期的に口腔内のチェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	パット委員会を中心に各ユニット毎に個々の排泄パターンを把握しながら誘導やパットの種類など検討し、自立支援を行っている。	パッドを使用する入居者の尿量測定を行い、本人の状態に適したパッド種類を細かく検討されています。ラバーシートを使用せず、就寝時にも快適に過ごせるよう努力されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	繊維質の食材を出来るだけ多く使用し、毎朝、乳酸菌を提供し、適度な運動を働きかけるなどし、出来るだけ下剤を減らし、自力排便できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は心身をリラックスさせ、職員との心の距離を近づけるのに良い機会ととらえ、個々の希望に応じて入浴していただいている。	個浴の浴室では、職員と入居者とが1対1でゆっくり会話できる場となっています。希望者は、毎日でも入浴でき、時には仲の良い入居者同士で入ることもあります。入浴を好まない入居者には、草取りなどを手伝ってもらい、汚れたり汗をかいたりして自然と風呂に入りたくなるような状況をつくるなどの工夫をされています。	
		○安眠や休息の支援	当苑の方針は、居室に閉じ込めるのでは		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なく、リビングで皆と楽しく過ごしていただくことだが、決して無理強いせず、休みたい時には休んでいただいたり、夜間に足浴、手浴をし、ゆっくり休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は出来るだけ少なく、又、服用しなくても良いと思える薬は医師に症状を伝えて判断を仰ぎ、副作用の軽減に努め、適切な用法、用量に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の好みや楽しみを日常生活の中で把握し、毎日の食事やレクリエーション、散歩、ドライブなど取り入れ、気分転換を図っていただきたくような支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望に添い、日常の生活の中での散歩や、本人の誕生日には、行きたいと希望されるところへ御案内したり、行事では外食ツアーを行うなど外に出掛ける支援に努めている。	日常的に近隣を散歩されています。花見や紅葉狩り、初詣など季節に応じて遠方に出かけておられます。墓参り外出など、家族の協力による外出支援も行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が希望されれば対応する用意はあるが、現在は事務所にてお預かりし、必要時都度、対応している。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話をかけたいと申し出られれば、自由に掛けていただき、お手紙なども届けば、本人にお渡しし、返事を書いていただけるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関にはいつも季節の花を活け、気候の良い季節は玄関、窓、ドアを開放し、外の空気にふれていただき、気持ち良く過ごしていただくよう努めている。	広く明るいリビングの窓からは、緑が広がる景色を眺めることができます。壁には、入居者と職員が一緒に作成した季節の壁画を飾られています。こまめに換気された室内は、さわやかな空気です。食卓では、全員が椅子に座ることを目標とし、入居者の状態に合わせて椅子の高さ調整が可能です。また、目的に合わせて組み換えができるテーブルが配置されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々の思いを尊重し、無理強いせず、自由にさせていただく中で、気の合う利用者様同士で食事をされたり、ゆっくりお話をされたりする時間が多くみられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使っておられた物を出来る限りお持ち込みいただくようお願いし、自分の部屋として早く慣れていただき、居心地の良い空間となるよう工夫している。	入居者は、使い慣れた家具や好みの物を持ち込まれています。夏場は、窓に簾を掛け、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングは車椅子や独歩で自由に行動できる十分な広さを確保した設計となっており、トイレ内にはファンレストテーブルを設置するなど、安全性を重視した上でできるだけ自立した生活を送っていただくよう支援している。		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	開設時、職員全員でBS方式による「理念」をつくり、毎朝の朝礼にて全員で唱和し、常に身近なサービスの「基本精神」と位置づけ、日々の業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	小学校の町探検で訪問してくれた子供達が友人を連れて訪問してくれたり、近隣の方とは日常的に「おつきあい」出来る関係を築いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の存在を地域の方々が認識して下さり、迷い子になられたお年寄りの保護を依頼され、民生委員の方と連携を取り、無事家族の方と連絡が取れ、事なきを得、喜んでいただいたこともある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、出席された方々に一言ずつお話しをして頂き、教えていただくこともあり、サービスの向上に役立っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市役所より受け入れを依頼されていた方の逝去にともなう各種手続き等のアドバイスを頂き、家族の方へのサービスに役立っている。		
		○身体拘束をしないケアの実践			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束は原則行わない」は開設時と変わっておらず、外出・散歩は本人の意志通りに行っている。エアコンを入れない期間は玄関、窓は無施錠としている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のスタッフ会議で「虐待の芽チェックリスト」を必ず行い、自分自身の反省とし、お互いに疑問に感じる点について、気軽に注意し合える関係作りを構築し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者の中に成年後見人を立てておられる方があり、スタッフ会議でその内容を勉強し、日々のサービスに活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時、及び解約時に於いては十分な説明時間をとり、納得していただくよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来苑された家族には職員や管理者が意見をいただけるよう声掛けし、要望があればすぐに行えるような体制づくりをしている。		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、朝礼やスタッフ会議に於いて職員全員が意見を出しやすい機会を設け、スタッフ会議には必ず代表者が出席し、その意見を聞き、運営に役立っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	月一回の定期スタッフ会議への出席時や通常業務中の巡回等により職員の状況を把握し、給料や賞与に反映させ、各種研修会にも本人の意志に添うよう計っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本人の希望する研修はなるべく勤務時間内に受講できるよう配慮し、各試験日には本人の休日になるようシフトを調整し、向上心を持って働けるよう環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム事業者交流会の会員となり、各勉強会や研修に参加できる機会を設け、他施設との情報交換を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所の意志を確認した上で、日常生活の中での不安や、要望等に耳を傾け、思いを真摯に受け止め、サービスに反映させている。		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来るだけ面談する機会を多く設け、家族の思いを受け止めている。小さな不安にも出来るだけ対応し、安心していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の思いと家族の要望を出来る限り、正確に把握することに努め、サービスとして提供し、喜んでいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で職員と共に家事を行う中で、人生の先輩として尊敬し、教えを乞う場面も多くあり、職員にとっても有意義な場となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	お誕生日には家族の方へ連絡をとり、一緒に御祝いして頂く等、常に連絡を取り、本人の情報を伝え、共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お元気な頃に働いておられた会社の方が定期的に来苑されたり、入所前に住んでおられた家の近所の方やお友達がおしゃべりをしに来苑されたりして、リビングで楽しい時を過ごしていただいている。		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士でお互いに声を掛け合ったり、協力し合える関係が多く見られ、そんな時は職員は口出しせず、そっと見守るような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	以前、入居しておられた方の家族が来苑され、現況を話して下さる関係を続けており、時折、花や七夕の笹など届けて下さり、会話ができる関係作りに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いに耳を傾ける、又、その表情などからも望んでおられることを汲み取るようにしている。これまでの生活歴や、ご家族との会話からも情報を収集することで、“その人らしさ”の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時にケアマネージャー、看護師共に情報収集を行い、生活面や介護、医療を様々な側面からとらえるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録に残すことで現状を把握でき、又、その状態の変化を知ることができる。利用者様の状態は日々変化するため、朝の申し送りや、ミニカンファレンスを行うことにより、スタッフ同士で情報を共有している。		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人を中心とし、家族、介護スタッフ、看護師、ケアマネージャー、かかりつけ医との情報交換を密に行い、個別性のあるケアプラン作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、看護記録、経過記録の記入に加えて、各ユニット毎に伝達事項を記入できるファイルを用いることで優先度の高い情報を分かり易くする工夫を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	御家族の方と相談し、外出、外泊を目標にして、歩行練習に取り組んでいる。又、学区の小学生が町内探険で来苑し、それをきっかけに交流を続けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域社会の中に溶け込み、町内会や日常生活の中での近所との交際を密にし、行事への参加等、メリハリのある暮らしを送ることが出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	常に連絡を取り、急変時には緊急往診して頂くこともある。日常の生活での健康管理も細かく指導を頂いたり、入院先の確保にも安心して相談できる関係作りが出来ている。		
		○看護職員との協働	毎日の申し送り時には毎週、日業務の		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日の申し送り時には勿論、日常業務の中で少しの変化も見逃さず、連絡を取り合う体制が出来ており、協力医への報告も密に行われ、救急時の対応もスムーズに行われている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医による入院先確保の体制が出来ており、必要時の受け入れ先に不安なく対応できている。又、入院中の様子も密に情報交換し合える関係作りを構築している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看取りの希望もあり、「その時」についての話し合いを医師をはじめ、家族・職員それぞれ十分納得出来るまで行き、気持ちをひとつにして支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	月一度のスタッフ会議の後半部分に職員勉強会を設け、看護師指導による応急処置や用具の使い方などの訓練を定期的に行い、いつでも実施できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている。	消防署員にお願いして実際に煙を炊いての避難訓練や、施設内の備品を使っでの救助訓練など、定期的に行い、運営推進会議の中にも盛り込み、一緒に訓練を行っている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

		○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保		
--	--	------------------------	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎月のスタッフ会議に於いて職員全員で「虐待の芽チェックリスト」で1ヶ月の介護を振り返り、声掛けや日々の業務を見つめなおす場を設けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	召し上がりたいものを聞き、メニューに入れたり、出掛けたいところと同行したり、日々の暮らしの中でもどうありたいと思っておられるのかを職員全員で考え、提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決められたスケジュール通りでなく、無理強いせず、あくまで本人の生活リズムにあわせて起床・食事・入浴等、個別に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に応じて洋服を家族の方とともに選んで着用していただいたり、理美容を定期的に利用して、その人の好みに合わせて整容していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来るだけ四季を感じていただける食材選びに努め、ともに下ごしらえや盛り付けなど行い、時には苑庭で趣を変えて召し上がっていただくようにし、食事を楽しんでいただいている。		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一日の最低必要量の目安を1500ccとし、飲んでいただけるメニューを個々に対応している。又、体調の悪い時は水分だけでなく、栄養補助の目的での経口補水も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	開設時より「口腔ケア」が認知症の進行に影響があることを意識し、常に口腔内の清潔を心掛け、毎食後の口腔ケアは勿論、訪問歯科の導入により、定期的に口腔内のチェックも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	パット委員を中心に各ユニット毎に個々の排泄パターンを把握しながら誘導やパットの種類など検討し、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	繊維質の食材を出来るだけ多く使用し、毎朝、乳酸菌を提供し、適度な運動を働きかけるなどし、出来るだけ下剤を減らし、自力排便できるよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴は心身をリラックスさせ、職員との心の距離を近づけるのに良い機会ととらえ、個々の希望に応じて入浴していただいている。		
		○安眠や休息の支援	当苑の方針は、居室に閉じ込めるのでは		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なく、リビングで皆と楽しく過ごしていただくことだが、決して無理強いせず、休みたい時には休んでいただいたり、夜間に足浴、手浴をし、ゆっくり休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬は出来るだけ少なく、又、服用しなくても良いと思える薬は医師に症状を伝えて判断を仰ぎ、副作用の軽減に努め、適切な用法、用量に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の好みや楽しみを日常生活の中で把握し、毎日の食事やレクリエーション、散歩、ドライブなど取り入れ、気分転換を図っていただきたくような支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	個々の希望に添い、日常の生活の中での散歩や、本人の誕生日には、行きたいと希望される場所へ御案内したり、行事では外食ツアーを行うなど外に出掛ける支援に努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が希望されれば対応する用意はあるが、現在は事務所にてお預かりし、必要時都度、対応している。		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話をかけたいと申し出られれば、自由にかけていただき、お手紙なども届けば、本人にお渡しし、返事を書いていただけるよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関にはいつも季節の花を活け、気候の良い季節は玄関、窓、ドアを開放し、外の空気にふれていただき、気持ち良く過ごしていただくよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々の思いを尊重し、無理強いせず、自由にさせていただく中で、気の合う利用者様同士で食事をされたり、ゆっくりお話をされたりする時間が多くみられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使っておられた物を出来る限りお持込みいただくようお願いし、自分の部屋として早く慣れていただき、居心地の良い空間となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビングは車椅子や独歩で自由に行動できる十分な広さを確保した設計となっており、トイレ内にはファンレストテーブルを設置するなど、安全性を重視した上でできるだけ自立した生活を送っていただくよう支援している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑長束

作成日 平成 26 年 7 月 21 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	日常的な外出支援。	毎日必ず外に出て外気浴を行う。	毎朝の体操の後, 全員で苑の廻りの散歩を行う。	半年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。